



平成27年10月12日発行
第94号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏

二〇一五年、早いもので今年もあと残すところ、二か月余りとなりました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか！



口頭で準備の大切さ

手賀沼と利根川に囲まれた我孫子市は、昔から水との闘いに明け暮れてきた街の一つです。九月に発生した台風一八号の影響による記録的な大雨で全国各地に未曾有の被害をもたらしました。被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。特に、茨城県常総市(石下、水海道)の鬼怒川の堤防が決壊した場所と利根川との合流地点は、我孫子市のすぐ間近、まさに何が起ころかわかりません。「線状降水帯」など、これまで聞いたことのない気候現象が起こり、命を守る日頃の準備の大切さを再確認しました。



安保関連法案の強行採決

一方、政治の世界でも大きな嵐が巻き起こっています。安保関連法案の参院採決の強行は、政治の世界に身を置くものがみても異様な採決でした。集団的自衛権の憲法解釈を「環境が変わった」の一言で正反対にした法案。今日までの平和国家としての積み重ねが崩れ常識が歪められることへの危機感が日増しに大きくなっています。

感動と喜びの涙

また、スポーツの世界では、感動し喜びの涙の機会もありました。ラグビーW杯、優勝候補にも挙げられる世界第三位の南アフリカと日本の試合です。三点を迫る試合終了間際の日本が逆転のトライに成功。三対三で勝利した瞬間、まさに「必然の奇跡」の一勝です。自然に涙があふれてきました。試合後の五郎丸選手の言葉「勝利は必然。ラグビーに奇跡なんてない」。できる限りの準備を積み上げてきた猛練習による勝利、起こるべくして起きた「必然の奇跡」でした。熱い感動を胸に新たなラグ

ビーの歴史がスタートしました。政治もスポーツも周到な準備で憂いなく進んでいくもの、日本ラグビー界の必然の勝利を政治も学び取ることが必要になっていきます。

九月定例市議会

九月議会は議員任期(四年間)最後の定例市議会でした。印南は会派(あびこ未来)の代表質問者として登壇。財政問題をはじめ、教育行政(小中一貫校・いじめ・給食費の滞納等)、二つの大型事業の行方について(大綱三点)、約一時間半にわたり代表質問を行いました。



印南 宏 9月定例市議会代表質問	
大綱1：財政の行方 (26年度決算カードから)	
ア. 市債残高の減少策	イ. 経常収支比率の推移
ウ. 地方交付税の今後	
大綱2：教育行政	
ア. 教育予算の拡充	イ. 小中一貫型小・中学校について
ウ. いじめ問題	エ. 学校給食費の滞納問題
大綱3：二つの大型事業の行方を問う！	
ア. 新クリーンセンターの建設	イ. 新文化ホールの建設

審議された主な議案

- 市職員の再任用に関する条例の一部改正(年金制度一元化による条文整理)
- 庁舎整備基金条例の一部改正(庁舎以外の公共施設の維持管理、修繕。更新に経費を充てること)ができるようにする)
- 手数料条例の一部改正(マイナンバーの再交付の手数料等)、
- 手賀沼親水広場の設置及び管理に関する条例制定(リニューアル期間の暫定管理)
- 市道路の認定・廃止・変更、一般会計補正予算(七億二千四百万円の追加、地方交付税の確定など)
- 議案一六号(二十号までは二六年度決算の認定議案(決算審査特別委員会を設置して審議))

印南宏 あびこ未来 会派代表質問(要旨)

印南・今後の市債(借金)残高の推移や減少策についての方針は？

企画財政部長・今後も当分の間、残高は増加するものと見込んでいます。市債残高の増加を少しでも抑制する

ため、通常債を含めた市債発行額を公債費(借金の返済額)以下とするように、毎年度の予算編成を行ってきたが、今後も引き続きこの目標を達成できるように努めたい。

印南・小中一貫教育における諸課題に対してどのように取り組んでいるのか？

教育長・各中学校区が一つのチームとして目指す子ども像を共有し、地域の特色を生かした小中一貫教育を推進できるような積極的に指導・支援していきたい。

印南・インターネットによるいじめ等の状況について、現状分析、その対応は？

教育長・ネットいじめは保護者や教職員が知らないところで行われ、児童・生徒が被害者にも加害者にもなる可能性がある。防止に向けては情報モラル教育の授業の実施やネットモラルに関する講演会、教職員向け等の研修会を行っている。

印南・新クリーンセンター建設について、焼却施設から発生するエネルギーを活用した還元施設を鋭意検討すべきと考えるが如何か？

環境経済部参与・つつじ荘の更新を見据え、地元との協議や国の

の交付金の動向も踏まえ、余熱利用施設について検討したい。

印南・新たな文化拠点の建設計画について、現在の検討状況を明らかにするとともに、整備に向けた作業の再スタートを宣言してほしいが、如何か？

市長・建設構想案は今後の財政状況と整備に係る概算事業費を十分踏まえた上で策定する必要がある。今年度は庁内検討委員会で課題の整理を行い、来年度の策定に向けて準備を進める。



■議員定数問題の経緯

九月議会、四人の議員による議員定数条例の一部改正案(二人を二人へ)が発議され、議会運営委員会で審議されました。市議会基本条例では、定数改正には公聴会や参考人制度の十分な活用を定めています。直前十一月の市議選を控え、条例に沿った十分な活用ができず、

条例に反するなどの意見が続出し、議会基本条例を無視した四人のパフォーマンス的な行動に多くの議員から疑問の声があがりました。発議案は採決の結果四対一七で否決されました。我孫子市議会の議員定数は八年前に三十人から二十八人に、四年前に二十八人から二十四人に削減されています。運営委員会は昨年十二月に制定した議会基本条例に基づいて、市民の意向を十分に把握して、改選後二年を目途に定数、報酬(賃金)を含めて結論を出すように申し送りされました。

まもなくの動き

○手賀沼親水広場の市有化
土地、建物、工作物など千葉県から七月一日に引き渡しを受け、八月五日付で我孫子市に所有権移転登記が完了。来年の六月まで暫定的な運営へ。

○小・中学校エアコンの導入
小学校十三校分のエアコンに対する国の補助金(二七年度学校施設環境改善交付金)が不採択となり、二六年度に行った総合評価方式による全六校、中学校分も五校が入札無効へ、小学校十三校に対する交付金も見込めず、全校同時に単独でのエアコン工事の発注は困難と判断。小学校に一括導入とするため、

小学校エアコンは、リース契約方式と変更することを決定。

○マイナンバー制度の導入
十月から個人番号通知カードを配布。来年一月からは申請した方へ個人番号カード交付。

○高齢者なんでも相談室
増え続ける認知症の相談・支援体制を強化するため、市内五か所の相談室に認知症地域支援推進員の配置。また、在宅と介護の連携強化へ「在宅医療介護連携推進協議会」を設置。

■請願・陳情

○請願三十号「安全保障関連法案の今国会で採決を行わない」ことを求める請願

※国の採決により撤回された。
○請願三一号「日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める請願」

○陳情十六号「甲状腺エコー検査費用の助成を希望します」

○陳情十七号「学校健診の結果の長期保存を求める陳情」
○陳情十八号「放射能対策室の存続を求める陳情」

〓請願・陳情はすべて可決されました





平和台雑感

◆大村智さんのノーベル医学生理学賞受賞に続き、今度は梶田隆章さんの物理学賞受賞が決まるという、うれしい知らせが届いた。梶田さんの受賞で、自然科学三賞の日本の受賞者は二一世紀に入って、実に十五人になる。受賞者の大村さんは定時制高校で化学を教えていた。そこで働きながら学ぶ生徒の姿に「学び直し」を決意し、研究者の道を歩んだ結果が今回の快挙へとつながった。戦後の日本が生んだ文明の「成熟」の証だという人もいるが、受賞者の偉業をたたえつつ、その元気を次世代に引き継いでいきたい。そう切に願っている。

◆「第三十回高齢社会への対応を探る」が十月三日、けやきプラザで開催された。我孫子市の高齢化率は現在二七・五%、十年後には三一・三%、二十年後には三六・五%になると推計されている。昨年成り立した国の「介護保険改正法」では支援事業が市に移管され、「医療介護総合確保推進法」では、病院から在宅医療へ重点が置かれた。多くの方は「自宅での療養や介護が必要になり、一人になっても住みなれ

た我孫子で最後まで自分らしく暮らしたい！」と望んでいる。我孫子市は二〇二五年を見据えた目指す姿として、「地域包括ケアシステムの実現と確立」を目標としている、団塊の世代が七五才以上となる二〇二五年を目途に、住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生最後まで続けられることができる「医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組み」その構築ができるか、否かが問われている。

◆自然災害が頻繁に発生している。地震、竜巻、豪雨、火山の噴火、まるで地球が人類の行いを怒っているようだ。そんな中、我孫子市は市民の生命・財産を守り、安全な避難につなげるために、九月に「洪水・浸水ハザードマップ」を作成した。自治会を通じて全戸に配布されるとともに、自治会に加入していない世帯は市役所の市民課、各行政サービスセンター、アビスタ等で配布される。ぜひ一読をしてほしい。しかし、災害は忘れた頃にやってくる。常日頃の防災訓練の大切さは言うまでもない。九月二六日朝早くから平和台自治会の総合防災訓練に参加した。平和台自治会は、我孫子市内の自治会の中で最も防犯・防災活動が進んでいる先進の自治会。二六日の防災訓練は、震

度六弱く六強の地震を想定して、訓練が実施された。「訓練被害状況表」を届ける訓練や、五十人用の非常食を作るなど、炊き出し訓練や避難所開設の講習等を行った。私は災害対策本部の一員として訓練に参加したが、自治会役員・理事の皆さんのご苦労は大きい。しかし地道な防災訓練をやっていて良かったと思わずや自治会員の皆さんに感謝されるに違いない。自助の大切さを学ぶとともに。そんな日々が来ないことを祈りつつ防災訓練を終了した。

◆三年半前に父が、今年五月に母が亡くなり、毎朝、仏壇に手を合わせている。時々、仏様と成った父と母と会話をしようになった。私が小学生だった頃の母の思い出は、いつも学校から家に帰るとミシンを踏んでいる姿だった。父の仕事がラジオの修理などを生業にしていた関係で、時代がラジオからテレビ、真空管からトランジスタと大きく変化する中、仕事が少なくなり、収入も減り、そんな中で、懸命にミシンに向かう母の姿が脳裏に残っている。洋裁が得意な母、近所から持ち寄られる「洋服の直し」が生活の大きな支えになっていたように思う。普段の母はとても明るく、元気な人だった。その後、私は地元の工業高校を出て、大学に進学。四

年間新聞奨学金生として働きた。がら大学に行くことを選択した。始めて数か月後のある日、住み込んでいた新聞販売店に父から突然、電話がかかってきた。父の話では「母は、雨の日になると宏はこの雨の中、新聞配達をしている。雨が降るたびに、母が涙を浮かべている。」そんな内容の話だった。今思い浮かべても子を思う母の愛情に涙があふれてくる。仏壇の前で昔を思い出した。元氣な母の姿である。懐かしい思い出ばかりが脳裏に浮かんでくる。

宏

印南 宏後援会
 〒270-1198 我孫子市日の出 1131
 (日本電気労働組合我孫子支部内)
 Tel 7184-2860



印南 宏 自宅
 布佐平和台 7-1-18
 Tel 7189-1598
 E-メール hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp
 HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/
 ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/

